

建築主：学校法人東京理科大学

設計：株式会社松田平田設計

施工：清水建設株式会社

所在地：野田市大字山崎字北亀山2668他

豊かな自然環境と融合するキャンパス

東京理科大学薬学部新キャンパス



カフェテリア

東京理科大学薬学部の新キャンパスは、千葉の恵まれた自然を取り込んだ、ゆったりとしたキャンパスになっている。「豊かな自然環境と融合するキャンパス」をテーマとして、その主題が堅実な建築的手法によって実現されている。中庭型の構成をとっているが、中庭の閉塞感とは四方に抜ける軸線によって緩和され、周辺の環境への連続感を感じさせて、さわやかである。運用によっては、地域に開き、様々なアクティビティを展開できる可能を感じさせる。

また、池を目前に配した食堂や学生ホール、その周辺になんとなく学生がたまる空間が用意されているのも、ゆとりを感じ

させて好感がもてる。

ファサードのGRCのルーバーは、研究室棟の乱雑になりがちな立面を整え、夏期の日差しの制御や外壁の長寿命化のために付されている。確かに研究室における実験等の煩雑な機能をコントロールする目的は理解されるが、これに関してはやや大味な感もいなめなく、室内からの眺望を若干阻害しているようにもみえた。

いくつか議論の箇所はあったが、環境を積極的に受けとめた佳作であることに異論はなく、郊外型のキャンパスの好例として評価できるだろう(篠原聡子)。



講義棟南面



池・ブリッジ

(撮影/平剛風アトリエ)